

令和6年12月定例会議 一般質問

2番議員 吉田 敏郎

学校現場の現状と教育現場の更なる整備を問う

文部科学省は、これからの新しい時代に相応しい学校づくりの在り方として、「学校が楽しい」「学校で仕事が出来てうれしい」と、“教員・子どもが双方に幸せを感じる”ウエルビーイングな学校施設を創造していくことを進めてきた。

将来が予測困難な社会、複雑化・多様化するカリキュラム、教職員の多忙化、不登校やいじめ、コロナ禍など、学校現場には様々な課題への対応が求められている。

本町では、幼・小・中学校の長寿命化改修や一人一台端末の導入など多機能化が進められてきた。また、産業医による教職員へのメンタルヘルス対応もしっかりとしている。

しかしながら、現場の教職員からは、廊下や教室への雨漏りをはじめ、様々な意見を耳にする。教職員が教鞭の更なる魅力向上のために、幼児・児童・生徒のより良い学校生活のために、次の事項を問う。

- (1) 本町の教育現場の現状をどのように捉えているのか。
- (2) トイレの早期改修と清掃委託の考えは。
- (3) 体育授業の暑さ対策、プール授業の暑さ対策は。
- (4) 普通教室の空調施設の更新計画を。
- (5) 生活支援・学習支援員を増員する考えは。